

園長室だより

令和元年度 第7号 (11月29日発行) 大阪市立立葉幼稚園長 岡林 朗子

11月は区民文化祭、園外保育、作品展と大きな行事がたくさんありました。子どもたちも様々な経験を重ね、それらを単発ではなく、つなげて考えられるようになってくる2学期はとても充実した時期です。1学期の経験、今までの経験を、つくったり、かいたりすることで表現し、お家の方に見ていただきました。子どもたちも、見ていただくことで自信につながったと思います。

作品展への取組など、紹介したいと思います。

また、アンケートへのご協力ありがとうございました。まだ、手元に持っておられる方は、どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思います。来年に生かしていきたいと思しますので、どうぞ、よろしくお願いたします。



今年も自然物にふれていただこうと、先生たちがそれぞれ休みの日に集めました。今年は「枝」を使ってツリーを作ることに決めたので、1人50本を目標に様々な枝を集めました。「実家(長崎)から送ってもらいました!」「友達と一緒に拾いに行きました!」等等…。

集まった木を、白石さんが、ちょうどいい長さに切りそろえてくださいました。お家の方々のアイデアや素敵な作品の数々を見て、今年もやってよかったなあと思ひ、うれしくなりました!

“縁の下の力もち”の力も大きい、立葉幼稚園の職員です。



作品展では、園舎全体が作品展!と共通理解し、1学期から遊んでいたものや、運動会の旗など、今までの生活を展示することにしました。いつも遊んでいる砂場が、芸術に大変身!木やチューブを使って自由に飾っていくゆり組(5歳児)。「自由に飾る」ことは本来、大人は難しいですが、子どもたちの自由な発想は、どんどん広がりました!



① 桜の木の色づきに気づき→②落ち葉でダイナミックに遊び→③落ち葉でまごごとをし→④落ち葉を飾りにする
子どもたちの気づきを大切に遊びに取り入れ、発展させていく保育は、さすが立葉の先生たちです。遊ばされているのではなく、自分たちが主体的に遊ぶ姿そのものです。



作品展は見てもらうための作品ではありません。作って遊んで、修理して…。遊びながら学び、また、遊び、それが発展し、変化し、また考える…。それが作品展です。

遊びながら家の中に入って相談し、子どもの世界が広がっていました。家の中にグューグューに入っている姿は、本当にかわいいです。



26日(火)立葉町公園の掃除(クリーンアップ作戦)

掃除のため、軍手をしました。3歳児は、5本指の手袋に苦戦…。4歳児は、それなりに…。5歳児は簡単にそれぞれ抵抗なくできる姿がありました。それぞれの姿がかわいかったです。いつも使っている公園さん!ありがとう!